

# 分考通信

第八号  
2017年11月号

文責  
中伸一



はずかし山椒  
ファクトリー

「鶏かぞく井」「熱鶏」を出品  
熱鶏は惜しくも二位に

## ふるさとまつりへの参加

11月19日(日)有田川町清水にあるふれあいの丘にて開催された「しみずふるさとまつり」に、家庭部の生徒を中心に、有志の生徒も含め、計9名の生徒が参加しました。

以前までは「清水産業祭り」という名前で開催されていましたが、2014年に名称が現在のもの変わって以降、今年で4回目のふるさとまつりとなりました。清水分校の生徒が参加するのも今年で4回目となります。

ふるさとまつりは、約40店舗が出店され、食品を提供したり、物品を販売したりなど、様々な催し物がなされ、活気溢れる地域のまつりです。



## 綱引き、惨敗!!!

地域の小中学生も、太鼓の演奏や綱引き大会などに参加し、まつりを賑わせてくれています。

その中で清水分校の生徒は、「綱引き大会」と鶏肉と山椒を食材にした料理を競う「山椒料理コンテスト」に参加しました。

「綱引き大会」では、高校生ということで、一般の部に参加しました。初戦の相手は、屈強な青年男性チームとの対戦でした。スタートの合図とともに、一気に引き寄せられ、一度も持ちこたえることができず惨敗でした。高校生の若さのパワーを見せることができないまま、あつというまに負けてしまいました。

「山椒料理コンテスト」は、購入してくださったお客様に投票してもらった結果と、審査委員による審査の結果により、順位を決めるというもので、三団体が参加しました。



清水分校からは、文化祭の模擬店でも出品していた「鶏かぞく井」(山椒風味の親子丼)と「熱鶏」(山椒をたれに混ぜ込んだ焼き鳥)を出品しました。

一位の団体には、賞金も用意されており、生徒だけでなく教員も必死になって取り組みました。

当初準備していた、親子丼80食と焼き鳥100食(300本)が売り切れ、売れ行きとしては十分でしたが、結果は惜しくも2位ということで、優勝を逃しました。

まつりの最後には恒例のもち揚げもあり、盛り上がりを見せました。

綱引き、山椒料理コンテスト、ともに結果は残念せんでしたが、参加した生徒は忙しいながらも楽しんでいました。生徒数は少なくなっていますが、こういった地域の行事にも積極的に参加していくことの大切さを、生徒たち自身も感じることができたのではないかと思います。



## 読書の秋

読書週間が11月にありました。読んだ本の感想を1つ載せます。

あなたの猫をお預かりします

T・T

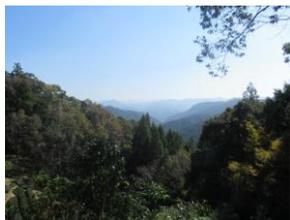
この本は、短編ミステリーが7話あります。すべての話を読んで、ある共通点がありました。それは、動物が事件のきっかけになっているところ。自分のペットが突然誘拐されたり、相手のペットを巡って暴力事件に近い事が起きたりというような事がありました。けれど、最終的には平和的に解決しました。事件後、何事もなかったような、平和な日常がもどって来ましたが、友人との友情をなくすこともあったが、事件解決の手助けをしてくれた人のありがたさや、ペットとの愛情がさらに深まるなど、主人公の得た物も多かったと思います。実際にこういう事件が起こったら、僕はきっと警察へ通報すると思います。でも、動物のためには何か手助けできたらいいなと思いました。また、違うミステリーの本を読み創造を膨らみたいです。



## 歴史を実感

11月9日(木)に「平成29年度 次世代育成事業」に本校生徒が参加しました。次世代育成事業とは、和歌山県が主催している「世界遺産 紀伊山地の霊場と参詣道」を生徒達が体験するなかで、郷土の歴史や文化に触れ、学習するものです。今回は田辺市本宮にある世界遺産センターの見学と熊野古道(中辺路) 伏拝王子から熊野本宮大社の 4kmを散策してきました。参加しての感想や調べて分かったことを紹介します。

## 湯の峰温泉



湯の峰温泉は熊野の大阿刀足尼おおとのすくねによって発見されました。1800年前に開湯され、日本最古の湯として親しまれています。2004年に温泉として世界で唯一世界遺産に登録されています。昔から、熊野詣に行く旅人たちがここで湯垢ゆごり離れ、身を清めました。

今回は修理中でつぼ湯に入ることは出来ませんでした。何回も壊れたりしているのに今まで続けていることにも感動しました。また、日本で最古の湯が和歌山にあるということは誇らしいと思いました。湯の峰温泉は歴史が多く残っていて、今も多くの人に利用されているのでこれからも大勢の人に知ってもらいたいと思います。(K・H)

熊野古道を歩きながら、昔の人々が見た景色と、その景色を見た時の思いを知ることができました。それが今も、歩きながらその景色を見て感動することができるのは、とても素敵なことだと思います。私自身も、山の上から見た熊野川を見ることができたと思ったり、雲囲いの良さに感動しました。昔の人々もこんな思いで歩いたのかな・・・?。歴史がなければただの山道かもしれないけれど、誰がどのように歩いたか、どのように感じたかという歴史が現在まで残されてきたことで、今もこうしてたくさんの人々が熊野古道を歩くのだと気づきました。歩いてみると外国の観光客の方たちもいて、外国の人々にも熊野古道の魅力が伝わることを知りました。きっと、昔の人々は外国人が熊野古道を歩くなんて、考えたこともなかっただろう、と思うと面白く思いました。(M・A)